

多くの歯科医師・歯科衛生士の方々が、今この時も全国各地で予防歯科に取り組んでいます。「LION Dent. File」では、時代の趨勢となっている予防歯科への潮流の中で、日々活躍されている歯科医師・歯科衛生士の方々のさまざまな取り組みについてご紹介します。

岩手県八幡平市で若い歯科医師夫妻が経営している佐藤歯科医院では、地域に根ざした予防中心の歯科診療が軌道に乗りつつあります。しかし、ここに至るまでには父の教えを受けられぬまま医院経営を始めざるを得なかった現院長と、急逝した先代と地域歯科医療を続けてきたベテラン歯科衛生士との長い葛藤がありました。

ともに「よりよき歯科医療」を目指しながらも方法論の違いで重なるすれ違い。これ乗り越えたのは若い院長が掲げた「医院理念」といいます。新旧世代の葛藤で、何度も困難な状況に直面しながら、今や一丸となって予防歯科に取り組む佐藤歯科医院の皆さんにお話を伺いました。

右も左もわからない状態で父の医院を継ぐことを決断。

佐藤史尚院長 2007年の4月、歯科医師の国家試験に合格して、母校の岩手医科大学歯学部で臨床研修を受けた私は、開業医である父の下で勉強をしようとして妻で歯科医師の牧子とともに八幡平市に戻ってきました。しかし、一緒に働き始めてわずか1週間で父が病に倒れ、4カ月後の8月に他界してしまいました。

当然の事ながら、当時の私は歯科医師としても院長としても、まったく未経験で、何から手をつけて良いかも

わからない状態でした。そのまま父の医院を継ぐことに自信もなく、かなり躊躇しましたが、父の下で働いていたスタッフをはじめ、関係者の方々に相談し、皆さんのご協力の下に、最終的には医院を引き継ぐことに決めました。

佐藤牧子副院長

そばで見えていた立場としては、一度医院を開けて、どこかの医院で修行をしてから改めて開業した方が良いのではないかと感じていました。ただ、先代が亡くなる直前までこの医院を気にされていたことや、院長自身「後を継ぎたい」という強い思いがあったこともあり、大変かもしれないけれど、頑張ろう」ということになりました。

院長 とはいえ、気持ちはあっても実力は研修医レベルですから、当時は本当に大変でした。かつて当院に勤務していたいただいた先生や、父が所属していた岩手医科大学の歯周病科の先生方にご協力いただきながら、何とか必死にやってきました。

私が院長を継いだことで、一部の患者さんは去っていきました。それは仕方のないことだと思えます。私としては、とにかく残ってくださいった患者さんに誠実に対応することを心掛けました。

中には「先代と違う」と言われる方もいました。しかし、そう言っていただけでもありがたいと思えました。教えを請うはずだった父がいない今、患者さんから

「医院理念」を軸に 新旧世代で 予防歯科診療を確立

岩手県八幡平市 佐藤歯科医院

院長 佐藤 史尚 先生

副院長 佐藤 牧子 先生

